

第三期「板橋区子ども読書活動推進計画」検討委員会 要点記録

| | |
|----------------|---|
| 会議名 | 第三期「板橋区子ども読書活動推進計画」検討委員会 第4回検討委員会 |
| 開催日時 | 令和3年3月1日（月） 午後1時30分から午後2時40分まで |
| 開催場所 | 板橋区役所南館6階 教育支援センター 研修室ABC |
| 出席者 | 20人（敬称略） 欠席1人 [委員] 片岡輝(委員長) 山口諤司(副委員長) 山田貴之 秋葉芳枝 田中泰彦 吉田和子 [区側委員] 教育委員会事務局次長 藤田浩二郎 地域教育力担当部長 湯本隆 蓮根第二小学校 阿部ひろみ 志村第四中学校校長 北村康子 西前野保育園園長 根岸順子 氷川児童館館長 金子圭子 高島平図書館 日向明子 氷川図書館 高松杏 蓮根図書館 安川まさ子 [事務局] 中央図書館長 大橋薫 保育サービス課長代理 保育運営・給食係長 小池陽子 子ども政策課長 雨谷周治 学務課長 星野邦彦 地域教育力推進課長代理 青少年副係長 笹川正晃 |
| 会議の公開 (傍聴) | 公開（傍聴できる） |
| 傍聴者数 | 0人 |
| 議 題 | 1 議事事項 議事（1）パブリックコメントの実施結果について 議事（2）「板橋区子ども読書活動推進計画2025」（原案）について 議事（3）その他 |
| 配布資料 | 資料1 パブリックコメントの実施結果について 資料2 「板橋区子ども読書活動推進計画2025」（原案）について |
| 所 管 課 | 教育委員会事務局 中央図書館 事業サービス係 （電話 6281-0291） |
| 会議状況 (会議概要) | 開会 委員 長：それでは第3期「板橋区子ども読書活動推進計画」の第4回の検討委員会を始めます。 議題について事務局より説明をお願いします。 議事事項とそれに伴う資料説明 議事（1） パブリックコメントの実施結果について 議事（2） 「板橋区子ども読書活動推進計画2025」（原案）について 委員 長：それでは何かご質問やご意見はありますか。 |

副委員長：計画原案の46ページの取組56のSDGsに考え方に基づくということで意識化は重要だと考える。未就学、0歳の頃から読書活動推進するという事で、音をたくさん聞かせる、音と文字を定着させるが重要だ。小学校になる時に、音とひらがな、かたかなという文字に合致させることで、音と文字を定着させてく。そこから読書が始っていくようになる。音をたくさん聞かせている時代というか幼稚園まではそれをやっていく、小学校に入るまでに、音と文字を定着化させていく、そして今度は文章が読めるようになって、文章をイメージしてみるようになる。最終的には読解力に関わっていく、書かれている文章の行間の中から、人間と物とかの関係をつかんでいく。そのようなことを意識して、自分はなぜ勉強していくのかということをお教える機会が必要だ。教育という現場にいるので、音と文字、そして文章が何を意味しているのか、文章力からイメージしてみるのだと意識的に、ただ読書をすればいいという事ではなく、何のためにやっているのか、何度も何度も子ども達に教えていくことが、その時期を考えながら必要となっている。また大学の入試も外部機関の英語など、特に英検1級である等、外部の試験を受け入れた形で今期から、大学入試が始まっている。外部機関の英語検定や漢字検定などを通して、英語や漢字というものが面白いという講座なども少しずつ進めていけたらいいと思いました。最近、NHKに頼まれた仕事で、未就学というか中学を途中で辞めた人たちや不登校になってしまった人達が全国に沢山おり、本を読めるふりはしているが、実際は読む事が出来ず、全く日本語を理解できていない。これをどうすればいいのかと話を聞いた。都内にはそういう方たちの学校がある、どこかの県では、そういう方のための学校を新設し、特別に開いたところもあるそうです。これは日本人だけでなく、外国の方でも日本語を勉強したいと思いつながりながら、中学校を卒業したという修了証がなく、高校にも行けない。また修了のためアクセスも出来ないという方々がたくさんおり、図書館でそういう人のために何か出来ればいいと、その調査をして感じ、また困っている方も身の回りにいるということを改めて思ったところだ。そういった人も含めて日本語をどう教えていくのか。このことは日本の文化を守ることにつながるので、新しい図書館でそういう発信をしていければいいと思う。

事務局：今のご意見を踏まえてお話しすると、不登校については教育委員会事務局でも課題意識を持っており、区議会でもご報告させていただいている。今後も必要な課題として捕らえていくことになる。読書活動がどのような関わり方をしていくか、それも踏まえて社会教育全般における課題と思う所です。また多言語に対する話がありました。こういう外国籍の方が在籍している場面では、全く日本がわからない方が、研修、講座を受ける際にはなどにおいて、新しい中央図書館にはボローニャ絵本館が併設しており、その方の母語の絵本を絵本館が所蔵しているので、そういった資料を活用しながら支援し、繋げていければと思います。

事務局：義務教育は卒業試験がないので、年次を経れば義務教育の過程を経ずに結果的に卒業している方もいますし、ご指摘のとおり外国籍の方も増えている。年齢は達しているが、義務教育を受けていないので、結果的には不十分な状態で、社会デビューする。その方達に対しては、東京都全体の取組になりますが、夜間中学が8か所程設けており、こちらを卒業することで、改めて中卒の資格の取得が可能となる。過去、学習機会が戦争等でなかった、学校に行くことができなかったとか、そういった方にご活用いただいたり、また外国の方にもご活用いただいていると聞いている。また、一部の自治体について、学校の新設を行っているという話も聞いている。また日本語の指導につきましては、日本語初期指導というものを行っており、日本語のひらがなからわからない方に対して、春休みと夏休みに日本語の初歩を勉強して、各学校の日本語学級、または言葉指導の支援を受けながら、学習していく支援も整えています。

委員長：今、色々話しがございまして、場の設定や機会をどう提供するかのご提案があった。問題は場や機会をどう具体的に実らせるかという、それを促進するための人材をどういう風に確保するかあるいは、育てるかということが、大きな問題なのではないか。それ以外に、例えばここにいる委員の方が活性化のための中心活動になっていただくとか、ただ機会をつくるだけではなく、区民が集まっていく中で、成長していくプログラムを引って張いく人材をどう委嘱するか、あるいは活動していただくか、こちらのビジョンを持っていないと、機会を提供してもなかなか上手くいかない。やはりリーダーのような人をどう委嘱して育てて、そして、その人が次のリーダーを育てるような良い循環を生むようなプログラミングをきちんと設定していく必要がある。初めての人が1期生、次が2期生、そして3期生みたいに仲間意識ができ、横に広がっていくような仕組みを設定しておかないと、個人で孤立して活動するのはなかなか力にならない。仲間意識とか助け合いとかサポートの仕合とか達成した色々な経験を次に伝えていかないと単発的にやるのではなく時系列的なプログラムをやり、設定しておく必要があると感じました。

事務局：今の話はその通りだと思います。45ページにある図書館サポーターは図書館の現場においては、大きな広がりを持ったり、図書館サポーターは学校に出向いく活動もあります。あるいは新規のICSの取組の中で積極的な読書活動の取組を行っている。そうした人の中で、取組みの中で継続的に続けられる場面を意識していくことが、この事業において重要と感じる。

委員長：中央図書館を見学させていただいたが、素晴らしいスペースができています。やはり、あのような環境の中で開架式の書棚から本を持ってきて、お互いにグループで本を読み合うなど、プログラムはこちらで用意する必要はあるが、本当に素晴らしい環境ができて、素敵だなと感じる。図書館は行っても冷たい感じであったりするものだが、普通の人が行ってもまた来たいと思える図書館で、カフェも何か企画があるようですが、そういう場を作り、中心人物になるような人材を育てていく。それがプロジェクトが上手くいくかのポイントではないか。現場は本当に素晴らしいところで、今までの冷たいような図書館とは全く違う。素敵だなとか、行ってみたいなど憧れを感じさせるような場になっていました。

事務局：新しい図書館の取組についてもお話しがありました。新中央図書館では様々な施設的な空間が出来上がり、人材育成にもつながると思います。読書を通じた専門的、学術的な活動をされている方と連携を取って活動を体験できるような場にもしたいと思っている。その活動の中で、我々、職員も人材として活動していけるのではないかと考えている。

委員長：色々なサークルとか研究会とかグループとかそういう人たちが自由に使える空間にして、もちろん要望が多ければ抽選ということにして、そういう人の出入りがあれば、その場に引き寄せられ、生きた板橋の文化活動の拠点となるような仕掛けとしていただければいいと思いました。また検討委員のメンバーも一度見学会などして頂き、新しい図書館をどう使うか検討をしてもらおうとイメージが広がると思うので、そういう企画をしていただければと感じた。

委員：仲間意識とか自立性とか図書館に関わって、積極的に活動してくれる人材の育成はこれから大事だと思いますが、新しく図書館ができることによって、やり易くなるのかなと感じる。東京都立美術館には「とびら」と言って、美術館の扉を開くという意味と都美術館をかけて、もう10期生もおり、いま11期生を募集している。1、2年で卒業していく中で、そのOBたちが各地で活躍しアートシーンを盛り上げている状況がある。委

員長がおっしゃるとおり、それを子どもの力が関わる何か主体的な仕組みななければいいと思う。また 33 ページにある「子ども司書制度」の創立は面白い新規の取組とを感じる。ただ説明ではわからないところもあり、もっと教えて欲しい。これは、中央図書館と産業振興課が所管となっているので現場は図書館になると思うが、どこで子どもたちが活動していくのかなど、詳細が決まっていれば教えて欲しい。

事務局：産業振興課が「よむりえ」という名称の特許をとっている。読書と絵本をうまく結びつけた形で「よむりえ」というライセンスのある呼称にしていこう。それを上手く図書館の活動に結びつけて形にして、登録制度にできたらと考えている。実際に子どもができる図書館活動はそんなに広くはないので、それに纏わる知識だとか、勉強会であるとか、作品を読み合ったり、出会ったりする活動から入り、副委員長がおっしゃったように文章を更に深めていくなど図書館の活動を中心とした取組ができればと考えている。それを持って、図書館の「よむりえ」として認定していきたいと考えている。

委員：ぜひ取組を進めていただけたら面白いと考えている。「よむりえ」が司書と連携して、子どものコーナーをうろうろしていたら面白いと感じる。この委員会でも話が上がったが、どこまで読み聞かせをしたらいいのかわからない、何を読み聞かせすればいいのかわからないということで、司書に意見をいただいたりした。また改めて、絵本から本に移る段階で何を読めばいいのか。また、パブリックコメントの 2 ページの上に、絵本から児童書に移る段階で、何を読めばいいのか情報を得るのに苦労しているとあります。こういった方に、寄り添う事業として、子どもから、僕はこういった本を読んだよとか、お兄ちゃんから教えて貰ったりしたときに、自然な形で、次のステップに、子ども達が入っていけるいい繋がりが出来そうだと感じた。これは子どもの読書活動の推進計画なのだが、大人でも、履歴書を書く時、趣味が読書と書く人が多いが、個人的な体験ゆえに、読書体験を共有することが少ない。この図書館という共有スペースは、共有の体験ができる場所なので、大人についてくる子どもが、図書館に来て読書を始めたり、そのきっかけが中央図書館になればいいと期待をしながら計画を読ませて貰った。

事務局：読んでいく本、こういう時期にこういう本を読んでいたということが見えてくると面白い。先程ご説明させていただいた 33 ページの 15 の読書通帳の活用について、表彰制度など創設して、人の読書通帳など通常公表されることはないが、人がどんな本を読んで感想を得たのか見えてくるという事が一つの要素となる。個人的なものなので、表彰であれば、何でもいいという訳ではない。うまく活かして読書が見えてくる。楽しみといえるような要素を色々なところでちりばめていきたいと考えている。

委員：活字の体験をもっと視覚的に、元々私は美術館の学芸員をしていたので、活字から得た情報を絵にしてみてもそれギャラリーで展覧会をしてみてもはどうだろう。この話は面白そうだなと思った。読んで貰ったり、読書は本だけに捉われず、きっかけをどういう風に作っていくかだと思う。せっかく新しい図書館を創ったのだから、そこをツアーするとか、子ども達を集め、裏のバックヤードを見せていくとか、その場所が居心地がいいとか、面白いなとか、公園も近くにあって、遊べるんだとか、図書館の広がり、内側も深く見せてあげたり、外側も面として、その世界観を伝える道具として使ってみたり、司書や専門家の意見を取り入れながら、知恵をうまく使ってぜひ子どもの読書に結びつけて行って欲しい。

委員長：こちらの図書館で手作り絵本ワークショップをやっていて、とても子ども達が面白い絵本を作ってくれる。それを新しい図書館に置き、書架にして、みんなの目に触れて、それをみんなで作っていくコーナーが出来ると楽しいし、それを見た子ども達が自分たち

も作ろうといくというインセンティブにもなるのかなと感じたりする。そういった作られたものがあって、利用者として来て、自分が発信者になれるというような要素を入れることによって、子どもたちの読書に対する関心も高まるのではないかな。いい作品も沢山あって、出来た絵本が毎年溜まっていく。僕達で作った書架があると、子ども達の関心の度合いが違ってくると感じました。いいプロジェクトをやっているのだから、うまく集中して活用していくことを考えていって欲しい。

事務局：重点施策としている絵本の取組は、幅広く取組を進めて広がっている。また地域図書館を含めて、SNSの発信を通じ、フォロワーも順調に増えている。そういった場面を活かして、区内だけではなく、区外にも目で見えるような取組をしていきたい。

委員長：ボローニャ子ども図書館がありますよね。中央図書館との連携というのは今後、あるのでしょうか。

事務局：施設の1階そのものにあり、企画運営委員会という検討組織もある。また隣接しているところに児童コーナーがあり、日本語の絵本や図鑑が並んでいるエリアが広がっている。ボローニャ絵本館はその施設だけでなく、地域図書館にも出張して資料を目に触れて貰っている。また区外にも出張展示をしており、うまく織り交ぜながら発信していくつもりだ。

委員長：新しい図書館はいつオープンするのか。

事務局：お手元にチラシを配布しており、同じデザインで街中にポスターが張られる。3月28日の日曜日に開館するので皆様にご来館いただきたい。オープニングイベントとして、初日は観光大使の杉浦太陽さんをお呼びしている。また期間内には、副委員長にも音読講座を開催していきます。その他にも翻訳作家の福本由美子さんの講演会もあります。

委員：学務課長や幼稚園係長にも教育関係者の方オープン前に来て下さいと言われる。行事が忙しくお邪魔してないのだけど、ぜひお越しくださいと言われる。

事務局：午前中に平和公園では保育園の方は多数いております。そういった関係者の方、施設の方を中心にしたいと思っている。

委員：委員長がいうように、できるだけオープン前に行ってみたい。

事務局：今回の第三期の計画の原案ご説明した計画の推進、また新中央図書館の開館にあたっての絵本のまちいたばしの推進を軸に今後はご説明してまいりたいと思います。

委員長：これまでのところで何かご質問やご意見ありますか？

委員：こちらのチラシは学校の生徒に全員配りますか。PRが一番大切と思う。ティーンズの取組があり、素晴らしいので中学生に知ってもらいたい。また保護者にも知ってもらくと、図書館に行ってみたらと教えてあげられる。

事務局：生徒各々に配布する。SNSの発信もしているのだから広がっているのかなとも思う。

委員長：この3月28日のイベントの杉浦太陽さんによる読み聞かせはいくつ位のお子さんが対象

になるのですか？

事務局：対象となるお子さんは未就学のお子さんとなります。2回設定しており、午後の部は少し対象年齢の違う企画も考えております。

委員長：何かご意見はございますか。

委員：今はボローニャ絵本館は閉館しているのだが、開館していた時は、絵本の読み聞かせをしていた。乳児から小学校の低学年くらいまでの子がみえて、ある時、小学生3年生位の子が見えて、私も読みたいと言って、大人が読むよりも小さい子がのめり込む様に聞いていた。長新太さんの絵本はなかなか大人が読むのは難しいものだが、子どもは本当に生き生きと読んでくれる。それで子どもたちがとても喜んでくれる。図書館でも小学生が幼い子に読むという企画があると、幼い子もお兄ちゃんお姉ちゃんが読んでくれる。小学生も自信がつくこと、本を選ぶ楽しみを知ることできる。

委員長：司書の方がいるので何か子どもと触れ合う中で、ご意見や提案はあるか。

委員：お子さんは少しでも、自分と年の近い人に読んでもらおうと喜ぶ。例えば、中学生の職場体験の時に話し会をしてもらおうと、小さいお子さんが本当に嬉しそうにして、中学生もそれを受け止め、やはり嬉しそうにしている。それを見て、とても羨ましいと思う。そんなところが、これから始まる子ども司書の活動の一つとして考えていけるのではないかと考えている。また、利用を促すのが難しいティーンズに関しては、新中央図書館の新しいティーンズコーナーなどは、興味を引いてくれると思う。SNSの発信などは、ティーンズがよく使う文言が何なのか、ヒットしていく文言が何なのか、何が興味を引くのか考えていくことが大事なことだと思います

委員：子どもが子どもに対して読み聞かせをするという事は、昨年実施した。恥ずかしがる子もいたが、実際に一緒に読む練習をしてみると、自分の弟や妹に読む様にしており、とても楽しそうだった。一人で読むだけではなくて、読み聞かせをして誰かに伝える環境があるということは、子どもにとっていいことだと思う。子ども同士で一緒に本を紹介し合うとか、もっと本を身近に感じてもらえるようなイベントが大切だと感じた。

委員：1日図書館員や職場体験の受入れをしているが、学生にお子さんに本を読んでもらう機会が設けられないのが現状です。本を選んで貰う機会を作るとか、1日図書館員に書棚の整理をして貰うとか、また小さいお子さんは後をついて行って、きちんと本をならべるのだと学び良いお手本となる。やはり、自分たちよりも少しお兄さんお姉さんがやることの方が、私たち大人より、良いお手本になると実感するので、中央図書館だけでなく、お子さんが自分よりも小さいお子さんに本を読んであげるよ、本を紹介してあげるような機会を提供していきたい。

委員長：とても素晴らしい図書館が開館する訳だが、色々な形で子ども達が本に親しむ機会を作れば良いと思う。「よむりえ」の話だが、どんな制度設計なのか？

事務局：図書館の施設だけではないところで、産業振興課と連携しているところではあるので、様々な方の活動が考えられる。また絵本作りワークショップも産業振興課の印刷の関係のところと繋げ、読み聞かせの題材としてするなど、そういった広がり考えられるのえはないかと考えている。まずこの5年間の計画を形にして早いうちから、活動をしていきたいと考えている。

委員長：それでは、一言ずつ感想をお願いします。

副委員長：読書こども推進委員会ということで、読書を好きになっていただく。不読率を下げいくこと、環境を整えるのが大事だ。親が本が好きで読んでいくことで、子どもも本が好きになっていく。みんなが本が好きでを読んでいる、周りの人が読んでる中にいると子どもも読書は面白いのかなと思う。環境を事前と整えていくことが大切で、そのイベントの中心が中央図書館だということだと思う。またこれからコンピューターやアイパッドを使った、新しい本の読み方も出て言うと思います。とにかく本をみんなが読んでいるという環境を創っていくこと、中央図書館がそのセンターになっていくことが大事だと思う。

委員：中央図書館に見学に行ったが、一日居たいと思うような図書だった。子ども達が長い時間滞在してもらい、本を見つけることで本好きになるかもしれないと感じた。この計画に関わることで、これから出来そうな事、子ども達を巻き込んでいけそうなこと、具体的にはまだ考えられませんが、わくわくした気持ちで新年度を迎えようと思っている。

委員：こども読書活動の原案が作られて、思い出すと10年前から、板橋区で読書の推進を行って来た。平和公園の改築の時も代表ということで参画させていただき関わってきた。その為、こういった大きな形で中央図書館が出来上がったことに感動している。9年前は不読率30パーセントで今は7パーセント8パーセントという状況となり、学校と地域と区教育委員会が連携を取ってやってきた成果だと思う。また計画が出来てとても嬉しく思う。

委員：中央図書館が出来たので中央図書館にかなり注目が集まるとは思いますが子どもの活動範囲にある地域の図書館が大事とも思う。中央図書館が出来たことを契機に読書が好きな子どもが増えたらいいなと感じました。

委員：小中学校には中身、集まれるようなパンフレットを配っていただけたらとおもいました。

委員：中央図書館の近くにある保育園なので、中央図書館が出来たら、散歩コースでなのですぐ行きたいという話になる。また先日ブックスタートのまだ配布出来ない方への確認もあり、配布出来ない人に配布できた。そうった取組なども最初にどういった本を読めばいいかなというところが悩むところだと思うので、きっかけを作っていれているというところで読書に興味を持って貰えるといいと感じた。

委員：この資料を見て、図書館サポーターは今230人以上ということで驚いている。いまはコロナの状況ではあるが、今後、サポーター同士の横の繋がりが大事と感じ、また、質の良いサポーターでありたいとも思う。

委員：ここ数年、読書通帳などで利用をしなかった子ども達の図書館の利用が積極的にできてくると雰囲気を感じて感いる。また利用が遠のきがちなティーンズ世代への取組ををしていきたいと今回改めて考えさせられた。

委員：子ども読書活動推進計画を通して、実際に学校の図書委員会に出向いたり、実際に来てくれた子ども達の生の声を聞いて、図書館の活動や本の選書に反映させていければと思います。

委員：今回の会議を通しまして、子どもの読書を取り巻く様々な立場の方の意見を聞け、この

| | |
|--|---|
| | <p>ことを持ち帰り、これからの励み、また新しい種にしたいと思った。</p> <p>委員：改めて乳幼児からの読み聞かせがいかに大事かいうことを再度認識させられた。児童館では乳幼児の親御さんをはじめ読み聞かせを推進していこうと思いました。新中央図書館の図書館のチラシは紙質などもあり児童館でも好評だった。ブックスタートの本も貰えるとの事なので、今までは聞かないとブックスタートの本もわからなかったが、今後はお母さんと一緒に楽しみたいと思う。</p> <p>委員：私立園長協会の会長だが、担任の経験もあり腹話術もしたことがある。いつのころからか、前後左右見ても一車両、みんなスマホでゲームやラインをやっている。この異様な光景を何とかしたい。学生はもう本離れしている人も多いのかもれない。まず大人が本を読まないといけない。お父さんやお母さんがどんどん本を読まない。たまに数人、電車で本を読んでいる人がいると、いい光景だと感じる。携帯だらけの車内をなんとかしたい。今回、この検討会に参加できて、とてもいい刺激をうけた。</p> <p>委員長：色々ご意見いただきありがとうございました</p> <p>事務局：最後に連絡をさせていただきます。9月よりこの検討委員会に関わっていただき誠にありがとうございました。策定された計画につきましては委員の皆様へ送付させていただきます。また、中央図書館へのご来館をお待ちしております。</p> |
| | <p>会議の要点は、以上のとおり。</p> |